

平成30年度 嬉野市立大草野小学校 学校評価(年度末評価)

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標		
「未来へかがやけ 蛭っ子！」 ～笑顔いっぱい、生き生き と学び合う児童の育成～	○学び続ける子ども ・意欲的に自主的に学習に取り組む。 ・じっくりと考え、相手に伝わるように表現する。 ・進んで読書をする。	○思いやりのある子ども ・当たり前が当たり前に行える。 ・自他のよさを認め合いながら助け合う。 ・地域に学び、地域を愛する。	○たくましい子ども ・進んで心と体を鍛える。 ・規則正しい、健康的な生活を送る。 ・食事のマナーを身につけ、残さず食べる。 ・危機を回避する。

達成度 A: ほぼ達成できた
B: 概ね達成できた
C: やや不十分である
D: 不十分である

3 目標・評価

① 学び続ける子ども(知)「学力向上」 年度末評価

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	年度末評定	成果(○)及び課題(△)	今後の方策
教育活動	○学習習慣の定着	基本的な学習習慣の定着	・話を最後までよく聞くことができる児童90%を目指す。また、進んで発表しようとする児童85%を目指す。 ・「家庭学習にきちんと取り組んでいる」と答える保護者95%を目指す。	・話を聞く習慣づけの徹底指導、および、発達段階に応じた発表指導を工夫する。 ・「読む」「書く」「計算」の宿題を継続的に取り組み、自学ノートの活用を保護者へも啓発する。	A	○話を聞く習慣づけができていてと答えた職員、保護者は増えている。毎月の学習目標と関連させて指導したことが効果につながった。 ○算数科を中心としたグループタイム、みんなでタイムの指導や、集会でのやりとりを工夫したことで、進んで発表しようとしている児童の割合が増えた。 ○家庭学習については、上手な自学ノートの掲示や各学年での工夫した取組(自学コンクールなど)、月の学習目標の設定などの工夫によって、家庭学習の取組が着実に定着してきた。 ○「蛭っこカード」の取組によって、親子で学習・生活習慣の定着を図ることができた。また、小中連携の一環として、中学校の定期考査に合わせ「自学習習慣」を設けた。	・これまでの指導を継続して行っていく。 ・自学ノートの内容については、興味・関心からの学びだけではなく、学習内容の復習を中心とした学びにつなげていきたい。 ・放課後の補充学習を月2回程度実施していく。担任だけではなく、管理職をはじめ、級外職員も基礎的・基本的な内容の定着のために指導を行う。
	●学力の向上	算数科における思考力及び表現力を育てる指導方法の工夫	・児童の思考力・表現力を高めるための授業づくりを通して、活用力を育てる。 ・算数科の学習状況調査・標準学力検査において、各学年県および全国平均以上を目指す。	・算数科以外の教科にも主体的・対話的に学び合う活動を取り入れる。 ・少人数指導・TT指導を充実させ、計算タイムでの活用問題を工夫し、補充学習では全職員で指導に臨む。	A	○自分の考えを持たせるための手だてやグループタイムなどの学び合い活動を意図的に取り入れたことで、100%の児童が自分で考えたり、書いたりすることができていると答えている。 ○計算タイムや補充学習など、全職員できめ細かな指導をすることで指導をすることで児童の学習意欲が高まった。 ○12月の学習状況調査では、多くの教科で県の正答率を上回ることができた。	・算数科に限らず、他の教科にも意図的に学び合う活動を取り入れることで思考的・表現力を伸ばす。 ・児童の実態と単元の内容に応じた少人数指導も工夫と充実を図る。 ・今後も月ごとの学習目標を設定し、学習チャンピオンを賞賛していくことで、全校的な気運を高めていく。
	○読書指導	読書指導の推進	・年間130冊達成児童100%を目指す。 ・いろいろなジャンルの本に興味関心を持つ児童を増やす。 ・毎月「ノートレブノゲームデー」を実施し、読書の実施率を70%以上にする。	・教師やボランティアによる読み語りを実施するとともに、委員会児童の企画による図書館祭りを活用し読書の奨励を行う。また、親子読書回覧板やノートレブノゲームデーを実施し、家読を勧める。	A	○年間130冊を達成した児童は、2月12日現在98/127人で、77%達成となった。 ○いろいろなジャンルの本に興味・関心を持てるように「分類ビンゴ」を実施したことによって多くの児童が物語以外の本を借りて読んだ。 ○「嬉野市校長先生知恵袋事業」を活用し、1/2成人式でハッピーバースデーブックとして4年生全員にお気に入りの本をプレゼントし、読書への意欲喚起につながった。 ○読み語りボランティアの方の読み語りをさせていただきおかげで本好きな児童が増えた。	・今後も読み語りボランティアの方の読み語りは月1回継続していただくようお願いする。 ・読書指導においては、低・中学年は読書冊数を目標とし、高学年においては読書内容を重視したい。 ・「図書館祭り」は今後も、「あじさいまつり」「もみじまつり」「ゆきまつり」の3回に分けて実施する。 ・「親子読書回覧板」や「ノートレブノゲーム」などの家読の推奨「ハッピーバースデーブック」などの今年度の取り組みを継続して実施していくとともに、内容の充実を図ることで、読書を好きな児童をさらに育成していく。
	○ICT活用教育の推進	ICT活用教育指導の推進	・児童が、コンピューターや電子黒板、インターネット等を効果的に活用して、主体的に学習に取り組ませる。	・情報教育専門官との連携を図ながら、職員の研修をさらに充実させる。 ・コンピューターや電子黒板を効果的に活用できる単元や活動をさらに工夫する。	A	○電子黒板、デジタル教科書などの活用を通して、児童が意欲的に学習に関わることができている。 ○児童のICT活用を促すための教師の研修を行った。(パソコン室の利用) ○PTA企画部との連携による情報モラル教育の講演会を行い、情報モラルについて親子で学ぶことができた。	・情報教育専門官等と連携を図りながら、職員の研修をさらに充実させる。 ・プログラミング教育に関する研修を行う。

② 思いやりのある子ども(徳) 年度末評価

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	中間評定	成果(○)及び課題(△)	今後の方策
	○基本的生活習慣の定着	奉仕・協力・勤労などの精神や態度の育成	・礼儀正しい児童を目指す。 (あいさつ・返事・言葉遣い・無言掃除・靴並べ・廊下歩行)	・6月と11月に「あいさつ運動」を実施することで、あいさつや返事を上手にできる子をほめ、常に意識させる。 ・掃除の手順や用具の使い方を指導し徹底させる。 ・掃除強化月間を設け、全校で重点的に取り組む。	B	○年度当初に各学級において掃除の手順や用具の使い方について指導をしたことで、進んで清掃活動に取り組むと同時に、無言掃除を実行することができた。 △12月当初に1週間あいさつ運動を実施した。地区ごとに活動することで全員がそろって取り組むことができた。進んで挨拶することについては今後も継続指導が必要である。	・6月と11月の2回「あいさつ運動」を実施する。地区ごとのあいさつ運動を行うことにより、活動時間をみんなが揃えることができる。 ・掃除強化月間を設けることで、重点的な指導を行い、手順の確認や無言掃除の徹底を図る。
	●心の教育	思いやりの心の育成	・道徳教育の充実	・自分や友だちを大切に、思いやりの心をはぐくむ学級活動や道徳の授業を大切にすること。 ・人権集会や平和集会を行うことで、人権・同和教育や平和教育の推進を図る。 ・コミュニティとの連携を図り、体験活動を充実させる。	A	○授業参観で全学年「ふれあい道徳」を実施し、思いやりの心をはぐくむことができた。 ○平和集会でかたりべさんの講話を聞き、平和についての学習を深めることができた。 ○全校芋さしや芋掘り、しめ縄作りなど、地域コミュニティとの連携で様々な体験活動ができた。 ○「人権週間」だけでなく、日頃から人権について学級や全体で取り組みを行っ	・今年度同様、思いやりの心を育てる指導を継続して行っていく。 ・様々な体験活動を地域コミュニティの方と連携して行っていく。 ・人権意識を高めるために、全職員で子ども達の様子をしっかりと見ていき、取り組みを行っていく。

教育活動	●いじめの問題への対応	多くの目や手をかける学校及び学級経営	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人のよさを認め合い、いじめのないクラスづくりを目指す。 学級が孤立しないよう、同一歩調の指導を行い、「学校が楽しい」と言える児童95%を目指す。 「予防、早期発見、早期対応、再発防止」を念頭に置き、事案が発生した場合には、組織として迅速かつ丁寧に対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分や友だちを大切に、思いやりの心を育む学級活動や道徳の授業を大切に。 いじめアンケートを定期的に実施するとともに、教育相談週間を設定する。 QUテストを年2回実施し、結果を活用し学級経営力を高める。夏季休業中に職員研修を行う。 職員間において「報告・連絡・相談」を徹底させるとともに、校内いじめ防止対策委員会を開催して、迅速に対応する。また、週に1回行っている「支援を必要とする子の情報交換」を充実させ、職員間の共通理解を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「学校が楽しい」と回答している児童が95%以上であった。 毎週水曜日に「気になる子ども」の情報交換会を行っているので、「予防、早期発見、早期対応、再発防止」に職員一丸となって対応することができている。 一人ひとりのよさを認め合い、いじめのないクラスづくりを目指した学級経営を工夫することができている。 	<ul style="list-style-type: none"> 思いやりの心を育てる学級活動や道徳の授業を意識しながら学級経営を仕組んでいく。 QUテストを年2回実施し、教師一人ひとりの学級経営能力を高める研修会を実施する。 児童に対していじめアンケートを定期的に(3回)実施するとともに、それに伴う教育相談週間を設定して、児童一人ひとりが抱える問題点の早期発見に努める。
	○特別支援教育	支援体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育に関する専門性を高めるために年に3回の校内研修を行う。 支援を必要としている子を把握し、個に応じた支援を行う。 特別支援教育に関する共通理解を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関と連携し、専門の講師を招聘して職員研修を行う。 児童一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高めるため適切な指導及び必要な支援を行う。 個別の支援計画を作成し、個に応じた指導を行う。 年度当初の必要に応じてケース会議を行い、共通理解を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 夏休みに教育相談と連携し、我が校にあった支援を要する児童について研修することができた。 必要に応じてケース会議を開き、共通理解を図った。 学習ルーム1・2通級、支援を要する児童の支援計画を作成した。 出前トークで特別支援教育の研修を行い、地域コミュニティの理解を図った。 △保護者に向けての特別支援教育の理解を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 来年度も特別支援教育におけるスキルアップを図るための研修を計画していく。 全校児童及びその保護者に向けて特別支援教育の理解を図ってもらえるような場を設定する。 必要に応じてケース会議を不定期に開く。
	●特別活動の充実	自主的・自発的な態度の伸長	<ul style="list-style-type: none"> 集会活動や縦割り班活動を通して、思いやりのある心、自己有用感を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年や全校の場で出番をつくり、達成感を持たせる。 縦割り班活動の推進によって、高学年のリーダー性と思いやりの心を育む。 集会活動や学習発表会を通して、友だちのよさを認め合う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 定例の縦割り班活動以外にも縦割り班で新体カテストや草取りなどの活動を行うことで、高学年のリーダー性を育むことができた。 △行事等との兼ね合いで、縦割り活動の回数が少なく、十分な活動ができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 共遊やふれあい弁当等の縦割り班活動や掃除等の異学年の活動を多く取り入れることで、高学年のリーダー性と思いやりの心を育む。 集会等で、児童の活動の場を多くする。 年間計画を見直し、児童が積極的に活動できる場や時間を設定する。
	●小学校低学年の学習環境改善の充実	基本的な生活習慣、学習習慣の定着	<ul style="list-style-type: none"> あいさつや返事が元気にできる児童90%を目指す。 毎日宿題をきちんとできる児童90%を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> あいさつや返事を上手にできる子をほめ、常に意識させる。 決まった量の宿題を出し、宿題はその日のうちに点検し返すようにする。 保護者と連携し、協力を得て達成する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> あいさつや返事が気持ちよくできる子が多くなり、地域や来賓の方へのあいさつもできるようになってきている。 ○宿題への取り組みは十分にできている。 	<ul style="list-style-type: none"> あいさつや返事が元気にできている児童をほめ、いつでも、どこでも、誰にでも自然にあいさつができるように指導を継続する。 宿題は、してくるのが当たり前という意識を持たせ、忘れた時や書き直しは、その日のうちに取り組ませる。

③たくましい子ども(体) 年度末評価

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	年度末評価	成果(○)及び課題(△)	今後の方策
教育活動	●健康・体づくりの推進	心身ともに健康な児童の育成	<ul style="list-style-type: none"> 体育科の授業の充実を図り、運動が好きな子どもを育てる。(県教委の体力向上推進事業「さがんキッズスポーツチャレンジ」への参加) 縦割り班での遊びの時間を使って、いろいろな遊びを経験させ、外遊びを奨励する。 	<ul style="list-style-type: none"> 体育の授業作りについて意見交換をしたり、学習カードの共有をしたりできるようにする。 体育委員会のスポーツレクリエーションの時間を使って、「さがんキッズスポーツチャレンジ」の全種目に全学年がチャレンジできるようにする。 掲示版や児童集会を使っているいろいろな遊びを紹介し、遊びの楽しさを味わわせる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○「スポーツレクリエーション」の時間を使って、「スポーツチャレンジ」に全学年計画的に参加することができた。各クラスに記録用ファイルを配布し、何度も記録がとれるようにした。 ○児童集会で「スポーツチャレンジ」について紹介し、体力向上の啓発ができた。 ○縦割り遊びの他、各学級で「みんなで遊ぶ日」を設定するなど、外遊びの推奨ができています。 	<ul style="list-style-type: none"> 2020年度に新学習指導要領が完全実施になることを受けて、6年間の見直しを持った年間指導計画を作成する。 体育委員会の活動を工夫し、児童の更なる外遊びの推奨と体力向上を目指すとともに、運動の好きな児童を育成していく。
	○安全対策	危機管理及び安全対策の強化	<ul style="list-style-type: none"> 自分の身は自分で守るという意識を持つ児童を育てる。 登下校のみならず、外出時の防犯ブザーの所持率を100%にする。 交通ルールを守り、自転車の正しい乗り方ができるようにする。 「生きる力」の教科書等を活用し、生きる力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 関連機関と連携し、不審者対応避難訓練や交通安全教室を実施する。 学級活動、全校朝会等の機会を活用し、自転車の乗り方や身の安全を守る方法を指導する。 登校時のPTAや交通指導員の立ち番、下校時の見守り隊との協力体制を維持・継続する。 年間計画を作成し、年4回生きる力を育成する授業を実施する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○不審者対応・地震・火災避難訓練や交通安全教室を行ったことで、「自分の身は自分で守る」という意識を高めることができた。 ○登校時のPTAや交通指導員の立ち番、下校時の見守り隊との協力で子ども達を見守ることができた。 △登下校時外出時も防犯ブザーの所持率が97%であり、ほぼ100%に近い。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校だよりや学級通信などで防犯ブザーの電池交換や所持の呼びかけをする。 全校朝会など全校が集まる機会に、自転車の乗り方を再確認する。 予告なしの避難訓練の事前事後の指導を検討し、児童が速やかに安全に避難できるようにする。
	○望ましい生活習慣の形成	健康的な生活習慣の定着	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通して、立腰・手洗いうがい・歯みがきを実践し、自分で健康管理ができる。 ハンカチ・ちりがみ・つめ・かみの毛・朝ごはん等、習慣化できている児童を90%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 手洗いうがい・歯みがきを習慣化し、感染症予防に努める。また、学校歯科医・市健康づくり課と連携し、歯科保健指導をすすめる。 衛生検査を週1回実施し、結果を活用することで、習慣化を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○市の健康づくり課や歯科校医に歯科保健教室を計画実施し児童の歯科保健意識の向上を図った。 ○保健委員会による、日々のきれいな調べや週1の学級での衛生検査の確実な実施で健康的な生活習慣の意識化・定着化がはかれた。 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな機会をとらえ、望ましい生活習慣について取り上げ、より深い定着化をはかる。 健康教育について、すすく委員会の活発な活動を計画実践し望ましい習慣の定着化につなげたい。
	○望ましい食習慣と食の自己管理能力の形成	食事のマナーを守り、好き嫌がなく食べる児童の育成	<ul style="list-style-type: none"> 食に関する知識と関心を持たせ、好き嫌がなく食べる児童を90%以上にする。 6月・11月に給食マナー週間を設け、日替わりでテーマを決めて正しいマナーを身に付けさせる。 栽培活動を通して、育てる楽しみを知り、食への関心を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校栄養士による食育の授業や給食だより、給食委員会の発表などを通して、食の大切さを知らせる。 6月・11月に給食マナー週間を設け、日替わりでテーマを決めて正しいマナーを身に付けさせる。 栽培活動を通して、育てる楽しみを知り、食への関心を高める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○全学年、学校栄養士による食育の授業を行い、食への関心を高めることができた。 ○野菜の栽培や全校でのさつまいもの栽培を通して、育て食する楽しみを味わうことができた。 ○「早寝・早起き・朝ごはんカード」の取組状況を給食便りで児童・保護者に伝えることができた。 ○好き嫌がなく食べる児童は、ほぼ100%に近い。 	<ul style="list-style-type: none"> 外部との連携し、総合的な学習の時間や家庭科で食に関する取り組みを充実させたい。 給食の時間に望ましい食事マナーが定着するように、各学年の担任に声かけをお願いする。 食に関する情報や学校での取り組みなど、親子で関心を持ってもらえるような給食便りを発行する。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目 年度末評価

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	年度末評価	成果(○)及び課題(△)	今後の方策
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	校務等の効率化の促進	<ul style="list-style-type: none"> 各分掌間の連携及び情報共有を図り、効率的な業務への取組を推進するとともに、教職員の時間外勤務について1か月当たり前年度比10%削減する。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎週水曜日を定時退勤日に設定し、特に第3水曜日には実施を徹底する。 各教職員の勤務時間を確実に把握するとともに、特定の教職員に業務が集中しないようにマネジメントを行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○毎月第3水曜日の定時退勤推進の取組に対する職員の意識が高まり、定着しつつある。 △効率的な業務への取組を推進してはいるが、時間外勤務時間は前年度からほぼ横ばいである。 	<ul style="list-style-type: none"> 定時退勤推進取組を徹底し、全職員が毎週水曜日を意識しながら、見直しを持って計画的・効率良く業務を行う。 会議、研修は開始、終了時刻の厳守を徹底する。 各担当業務は、部会部員を元に複数で構成し、チームとして取り組む。